

# トポス. vol. 51

常磐大学学報 2008.12.22

未来が求める、その先の学び舎へ！

## 開学100周年記念事業進む

### 開学100周年記念事業期間 —2004年度から2013年度までの10年間—

学校法人常磐大学では、2009年の開学100周年を記念し、2004年度から様々な事業を展開してきた。

2004年度には、常磐大学大学院被害者学研究科の設置を機に芝浦サテライトキャンパス（港区芝浦）を開設した。サテライトキャンパスでは、eラーニング及びテレビ会議システムを含んだ双方向遠隔授業システムを使って、水戸と東京でライブ型の遠隔授業を取り入れた授業運営を行っている。その他、広報活動や本部の支援業務も行っており、東京事務所としての役割も担っている。また、常磐大学高等学校に程近い場所に開館した同窓会館は、ホールや会議場、応接室を備えており、各学校の同窓会の総会や懇親会のほか、PTA役員会、サークルの懇親会などに利用されている。在学生や教職員のほか、卒業生には無料で開放している施設だ。



● 同窓会館

2005年度には情報メディアセンターを開設。自由に使えるパソコンを多数配置したPC教室のほか、語学学習システム・コールラボ、CG合成など情報を加工した新コンテンツの制作も可能なバーチャルスタジオなどを完備した情報拠点である。



● 情報メディアセンターバーチャルスタジオ

2006年度には、水戸市中心部の大型商業施設内に一時預かり保育室「常磐大学ナーサリー“Popo”」を開設し、地域における多様な子育て支援を行っている。また、同窓会館脇に「諸澤みよ記念館」を開館。創立者諸澤みよの生涯と常磐の歩みを分かりやすく展示紹介している。

2007年度には地域連携活動に関する「総合窓口」として地域連携センターを設立し、2008年度には智学館中等教育学校を開校した。今後も100周年記念事業を推進していく予定である。

#### ■ 開学100周年記念事業

2004年度	管理運営関連事業	学校法人名称を「常磐学園」から「常磐大学」に変更
	管理運営関連事業	幼稚園名称を「常磐短期大学附属幼稚園」から「常磐大学幼稚園」に変更
2005年度	研究・教育支援関連事業	常磐大学芝浦サテライトキャンパスの開設
	地域連携関連事業	常磐大学連合同窓会発足
	施設・設備整備関連事業	常磐大学同窓会館竣工
2006年度	地域連携関連事業	卒業生センター設立
	施設・設備整備関連事業	Qs棟(情報メディアセンター)竣工
	管理運営関連事業	学校法人常磐大学ビジュアル・アイデンティティ制定
2007年度	地域連携関連事業	常磐大学ナーサリー “Popo” 開設
	施設・設備整備関連事業	諸澤みよ記念館竣工
	施設・設備整備関連事業	地域連携センター設立
2008年度	施設・設備整備関連事業	智学館中等教育学校校舎(1期)竣工
	教育関連事業	智学館中等教育学校開校



常磐大学第1回入学式〈1983年〉

\*解説=10p

■ 常磐大学総合講座・地域社会論

## 地方行政のトップが学生たちに特別講義を実施

● 自治体を理解し、市民と地域・行政の関係を考える



10月1日に実施された総合講座『地域社会論～自分のまちを知る～』の中で、講師としてお招きした加藤浩一水戸市長が特別講義を行った。

この授業の目的は、自分たち市民と地域・行政との関係をしっかりと考えること。そこで、生活に最も近い自治体を理解するため地方行政のトップからお話を伺おうと、コミュニティ振興学部の横須賀徹教授が全15回シリーズで企画した。

その1人目として教壇に立った加藤市長は、冒頭で水戸市の美しい自然を象徴する水に対するこだわりや、弱者を救済したいという思いを語り、経済成長のみの政策に対する疑問を投げかけた。また、水戸の歴史や近代国家の創造に影響を与えた水戸学を取り上げ、水戸らしい教育の重要性をアピール。さらに地方分権時代の政策にも触れ、近隣の市町村との合併を視野に入れた水戸市のビジョンを熱く語った。

こうして、現役の市長からお話を聞く機会は非常に稀なこと。この授業は学生たちにとって、大変貴重な経験となった。



←さまざまな政策を学生に熱く語る加藤浩一水戸市長(左)。また、10月22日には山口伸樹笠間市長(右上)、11月5日には中田裕桜川市長(右下)が講義を行った。

■ JICA委託事業

## 高橋シズエ氏が地下鉄サリン事件の軌跡を語る

● 誰もが尊厳ある生命を全うできる「人間の安全保障」を再考



高橋シズエ氏

地下鉄サリン事件被害者の会・代表世話人を務める高橋シズエ氏による公開講演会『テロの被害者—地下鉄サリン事件被害者の歩みとこれからのテロ被害者支援—』が10月29日に開催された。この講演会は常磐大学国際被害者学研究所と独立行政法人国際協力機構（JICA）が共催する『総合的被害者支援システムの開発』研修事業の一環。コロンビア、東ティモール、ネパール、スリランカ、パレスチナ、ウガンダの6カ国から集まった8名の研修員と常磐大学の学生、教職員、被害者支援機関の方々が交流を図る目的で企画された。高橋氏は講演で地下鉄サリン事件後の軌跡を事細かに紹介。質疑応答では「私が常磐大学の先生方に助けられたように、途上国の被害者にもサポーターが必要」と提言した。今回の講演は、被害者や遺族との向き合い方を再考するきっかけとなった。



講演会は一般にも公開され、多くの関係者が詰めかけた。

**高橋シズエ氏（地下鉄サリン事件被害者の会・代表世話人）**

1995年3月、地下鉄サリン事件で営団地下鉄霞ヶ関駅助役だった夫を亡くす。1996年1月、被害者やその家族、遺族らと、被害者間の交流や情報交換を図るため「地下鉄サリン事件被害者の会」を結成し代表世話人となる。その後、今日に至るまで、集会、署名活動などを通じて国や行政に被害者の現状を訴えながら、恒久的なテロ被害者救済法の整備などを求める活動を続けている。

## TOKIWA INTERVIEW ⑩

第3回NEXT TOKIWA未来創造連続講演会より

日本の国のかたちと教育  
～地方分権における大学の役割～

川勝 平太氏 (学校法人 常磐大学 評議員)

戦後の高度経済成長を経て、世界トップレベルの経済大国となった日本。しかし次に目指す国のかたちは見えてこない。では、今後どのように日本は国のかたちをデザインしていくのか、また、大学が果たすべき役割とは何か。静岡文化芸術大学で学長を務める川勝平太先生にお話を伺った。

「江戸時代の日本人が勉強したのは漢学と国学です。しかし、西洋の列強を前に、何を学ぶべきかについて見直しの動きが起こります。明治5年に出版された福澤諭吉先生の『西洋事情』は、その動きを決定的にしました。福澤先生は其中で、一国の独立の基礎は一身の独立にあり、そして、一身の独立は“学問”にあると語っています。では、どんな学問なのか。医学、物理学、経済学、法学といった西洋の学問、それを福澤先生は実学と呼びました。それを受けて学制が制定され、お雇い外国人を招いて、日本は西洋の学問をフルセットで取り入れ、洋学で立国をすることで、近代的国づくりを目指したわけです」

洋学の各分野の専門家を海外から呼び、その国の言葉で講義してもらおう。それを日本語に翻訳し、日本の言葉で教える学制がスタートした。

「その中心は東京です。藩を廃止して国力を東京に結集し、西洋の文物を日本人が分かるように変える、いわば「東京は西洋文明の変電所」の役割を担いました。その過程で、東京の景観は近代の欧米都市の姿になり、西洋文明は東京から発信されて、各地にミニ東京が出現しました」

日本の中心となった都市の景観は、その時代に影響を受けた文化が如実に表れるという。

「日本は時代区分を地名で行う、世界に例のない国です。各時代の都の景観は、そのときどきに影響を受けた外国都市の景観と酷似しています。例えば奈良・平安京都は、長安の都の模倣です。そして、東京は、エッフェル塔をまねた東京タワー、ニューヨークやシカゴなどの摩天楼があります。東京は西洋の文物をフルセットで入れることに成功し、やがて明治・大正・昭和・平成期はつづめて「東京時代」と呼ばれるだろうと私は考えています」

では、東京時代の次に来るのは、どのような景観を持ったどのような時代なのだろうか。

「1990年1月の通常国会で、東京の役割が終わったことを象徴する出来事がありました。東京から首都機能を移転する決議が衆

参両議院で可決されました。では首都機能の何を移すのか。国防、安全保障、外交など国家主権の行使が必要な機能で、それ以外の文科、国交、厚生労働、環境、農水、総務など、内政に関する省庁の機能は地域に移譲されることになるでしょう。地域分権です。「ポスト東京時代」の日本は、自立した地域を核に、分権型の国づくりを行うことになると見込まれます。日本は、世界の潮流をよく見きわめる国柄なので、地球環境問題をにらんで、地域区分の基準は自然景観になると思われます。たとえば、関東は平野が多いので「野の洲」、森が多い北海道・東北は「森の洲」、山が多い中部は「山の洲」、瀬戸内海を囲む西日本は海路が発達した「海の洲」といった具合です。それぞれの地域環境に応じて地域を整備することで、多様な地球環境の保全モデルとなりえます。これは地球環境を美しく維持しようという、世界的な潮流にかなった国のかたちです」

その新しい日本では、これまでの大学とは違った役割も求められると川勝先生は語る。

「近代日本の基礎となった西洋の学問を踏まえた上で、大学はもうひとつの役割が求められます。それは、地域に貢献することです。大学は地域密着型になり、地域おこしの知的拠点、人材供給拠点としての役割が期待されます。例えば街づくりを行う上でも、各地の自然条件、歴史、文化に応じたインフラの整備が求められます。だから地域の事情に立脚した人材の育成が必要となるのです」

日本の教育は明治以来、国家の独立を目的に行われてきた。しかしこれからは、地方自治も目的のひとつとなる。大学教育の方向性も、大きく舵を切るときを迎えたのだ。

## PROFILE



かわかつ・へいた ● 1948年生まれ、京都市出身。早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了。オックスフォード大学哲学博士。早稲田大学政治経済学部教授、国際日本文化研究センター教授を経て2007年、静岡文化芸術大学学長に就任。国土審議会委員。国交省圏域部会委員。教育再生会議委員。専門は比較経済学。



## TOKIWA高校生英語スピーチコンテスト

第3回TOKIWA高校生英語スピーチコンテスト2008が、10月25日に常磐大学内の、情報メディアセンター・センターホールで開催された。このコンテストは、高校生の国際的な視野を広げ、英語能力を向上させる機会として毎年企画されている。

今回のテーマは「私と世界の未来を考える」。参加した、茨城県内の高校生11名は、それぞれ個性溢れる副題を掲げ、日頃の英語学習の成果を発揮した。

審査方法は、発音やリズム、イントネーションなどの「英語力 (English)」、表情や視線、ジェスチャーなどの「表現力 (Delivery)」、そして、内容の完成度の「内容 (Contents)」の3項目を5人の審査員が評価。高校生たちは4分以上5分以内という制限時間の中、その総合点を競い合った。

今回、第1位の常磐大学賞に輝いたのは、日立第一高等学校2年の林美有さん。林さんは「常磐大学賞に選ばれたときは、信じられませんでした。いま、ようやく実感と共に、嬉しさを感じています。今回、私は『クラシックバレエから学



常磐大学賞に輝いた、日立一高2年の林美有さん。

## 高校生が英語学習の成果を披露!

ぶ』という副題でスピーチしました。なぜかと言うと、たとえ国が違ってもお互いを理解することはできると、3歳から習っているバレエを通して学んだので、そのことを皆さんに伝えたいと考えたからです。今後も、大好きな英語とバレエに携わっていきたいと思っています。もっと英語力を付け、来年もコンテストにチャレンジしたいです」と受賞の喜びを語り、達成感に溢れる笑顔を見せた。



↑コンテスト後に行われた、国際交流親睦パーティーの様子。参加者は互いに絆を深めた。  
←高木学長と審査員を囲んでの記念撮影。

## 心理臨床センター公開講演会

常磐大学心理臨床センター主催の公開講演会が11月1日に開催された。

この講演会は、心理臨床センター開設当初から実施されているもので、今年で5年目を迎える。目的は、ストレス要因が山積する現代社会において、心に対する理解を深め精神衛生の大切さを啓蒙すること。年々反響は大きくなり、今回は110名を超える受講者が会場に集まった。

講師としてお招きしたのは、川崎幸クリニックに勤務する臨床心理士、稲富正治氏。『私のメンタルヘルス』をテーマに、



毎週のように講演依頼が来る多忙な稲富氏。



臨床心理士の仕事や心に病を持つ人との接し方などをお話していただいた。中でも、会場の心を捕えたのは、診療の現場に立つ者しか知ることのできないエピソード。約束があることを心の支え

## メンタルヘルスの重要性を考える

にするクライアント(相談者)が、次の診療予約を入れるためだけに1年に4回訪れる話などを通し、「アドバイスすることではなく、ただそこにいること、相手を理解することが大切だ」と語った。

また、会場の受講者が2人1組で行う実験を実施。言葉を使わず顔の表情や手の握り方だけで感情を伝える

を試みなどを通し、コミュニケーションの難しさに対する理解を呼び掛けた。さらに、講演後の質疑応答では多くの質問がよせられ、精神衛生に対する関心の高さを示していた。



→稲富氏の専門は、アルコール問題、アディクション問題、不登校問題など多岐にわたる。  
↑一般受講者が多く訪れた。

現在、心の病に対する理解度は、徐々に上がってきている。しかし、まだ偏見がなくなったとは言えない。稲富氏は「心も身体と同じように病に罹ったら治療が必要だということ、ひとりでも多くの方に理解していただきたい」と話していた。

常磐大学硬式野球部

# 第39回明治神宮野球大会初出場、初勝利!!

常磐大学硬式野球部は、2008年度秋季関東甲新学生野球リーグ1部で2位になり、第4回関東地区大学野球選手権大会への初出場が決定。「横浜(関東大会)は通過点にすぎない。神宮(全国大会)に行くことが目標。流れにのって自分たちの力が出せば決して神宮も難しくない」と山田大介主将が語っていた通り、勢いに乗る硬式野球部



関東大会に準優勝し、全国大会出場を決めた常磐大学ナイン。

は、横浜スタジアムで行われた第1回戦、国際武道大学に7-1で勝利し、続く準決勝で流通経済大学を4-3で下した。そして決勝では、創価大学に1-5で敗れはしたものの、準優勝を果たし、創部以来の悲願である明治神宮野球大会(全国大会)に駒を進めた。

明治神宮野球大会は、地区大会を勝ち抜いた10大学がトーナメント方式で戦う。初戦は、北陸・東海3連盟代表の愛知学院大学。常磐大学は1回表に1点を先制されるも、その裏には2点を返し、3回にも追加点を上げた。吉岡興志投手の好投で1失点に抑え、3-1で全国大会での初勝利を収めた。



ナインと応援団が一丸となって戦った。



そして11月17日、4強入りをかけて戦う準々決勝の相手は、関西5連盟第1代表で、全国大会常連の立命館大学。ミスが続き、4失点。相手投手の切れの良い投球に打線も抑え込まれ、0-4で涙を呑んだ。

準決勝進出は叶わなかったものの、関東大会に初出場を果たし、久保田智之(阪神)や小野寺力(西

武)も果たせなかった神宮球場の土を踏みしめ、1勝をもぎ取った硬式野球部。大きな舞台を経験した硬式野球部の今後の活躍にも大いに期待したい。

また、今回初の全国大会出場に際し、常磐大学では即席の応援団を結成した。短い練習期間であったが、吹奏楽団ではOBの協力も仰ぎながら、グラウンドの選手たちを一丸となって応援。多くの学生や保護者、教職員らが応援席から選手たちの奮戦を見守った。

## 吉岡興志投手、憧れのプロ野球界へ



←プロでの活躍を誓う矢貫投手(右)と吉岡投手(左)。

2008年度ドラフト会議で常磐大学硬式野球部のエース吉岡興志投手が、阪神タイガース育成選手枠第2巡目に指名された。また、2006年卒業の矢貫俊之投手(三菱ふそう川崎)が、北海道日本ハムファイターズ3巡目で指名を受けた。それを受けて、11月12日に常磐大学内で記者会見が行われた。

「与えられたチャンスは生かして、どこまでできるか試したい」とMax150/kmのストレートを武器に意気込む吉岡投手に対し、石川清一監督は「プロの練習をすればもっと伸びる選手」と期待する。矢貫投手は「長身を生かした投球で即戦力を目指したい」と抱負を語った。石川監督は「練習が終わっても、一人でひたむきに走っていたのが記憶に残っている。彼ほど努力した選手はいない」と評価している。

2008年は常磐大学出身者から2名がプロ野球界へ。これからの2人の活躍に期待したい。

## 2008ときわ祭開催!

● PRESENT ~わたしたちから、あなたへ~



2008ときわ祭が10月25日・26日に開催された。心配された雨も初日には上がり、キャンパスには約7500人ももの来場者が訪れ、例年以上の盛り上がりを見せた。実行委員長を務めた、人間科学部心理教育学科3年の青木諒太郎さんと、副委員長を務めた人間科学部心理教育学科3年の猪瀬翔南さんが「ときわ祭というプレゼントを、ぜひ受け取ってください」とコメントするように、今年のテーマは『PRESENT~わたしたちから、あなたへ~』。ときわ祭でのステキな思い出を皆さんに贈りたい



という思いから、今回のテーマが付けられた。

特に注目を集めたのは、学生たちのゼミ発表だ。中でも、人間科学部健康栄養学科『茨城県みそ研究サークル』は、伝統的な発酵食品、味噌の健康に対する効果をプレゼンテーション。茨城県産味噌の販売も行い、栄養学的見地から、食生活の見直しを呼びかけた。また、お笑いライブ IN TOKIWA 2008には約1500名の観客が訪れたほか、子どもに人気のゴーオンジャーショーや俳優・関口知宏さんによる講演会なども開催。バラエティ豊かな内容となった。

今年のときわ祭は、忘れられない思い出をプレゼントされたような、そんな学園祭となった。



## 大怪我を克服! 体操部男子 2年 檜山和真君

● インターハイ 跳馬 2位、全日本選手権 跳馬 4位

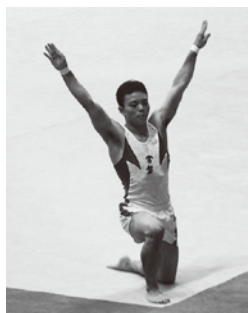
ここ数年、体操部男子は全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場を果たしている。2008年の埼玉インターハイにおいては、昨年の団体総合11位から5位に大きく躍進をとげ、種目別では、あん馬で佐藤宏太君が優勝、4位に小友翔太郎君が入賞。檜山和真君は跳馬で2位、ゆかで3位の成績を収めた。また、檜山君は全日本ジュニア体操競技選手権大会で個人総合10位に入り、全日本体操競技選手権大会の出場権を手に入れた。そして、跳馬で4位入賞という活躍をみせた。

ここまで順調に力をつけてきている檜山君だが、実は2007年に高校入学を目前にして、練習中に頸椎の脱臼骨折という大怪我をしていたのだ。手術をして、奇跡的に普通の生活を送れるようにはなったが、入学当初は練習ができる状態ではなく、定期的なリハビリをしに病院に通い、

体育館では基本動作の反復練習だけを毎日を送っていた。

復帰戦はその年の新人戦だった。首の状態もまだまだ気を許せる状態ではなかったが、個人総合で3位に入賞した。怪我で入院をしていたとは思えないほどの成績だった。

檜山君は佐藤君とともに、日本ジュニアの強化指定選手にも選ばれ、今後は海外での強化合宿や練習会などを通して国際大会へ出場する機会があるかもしれない。次のロンドンオリンピックも視野に入れながら、さらに鍛錬を積むことになる。



檜山和真君



大きな躍進をとげた体操部男子

## 智学館中等教育学校

NEWS\*

## 遠隔授業システムを利用した「開かれた教室」の実践

## ● 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスとリアルタイムに結ぶ

智学館では毎月共通のトピックを、各教科でさまざまな角度から掘り下げるテーマ（通称トピック）学習を行っている。10月のトピックは「アフリカ」であった。英語科では、10月24日、慶應義塾大学環境情報学部 長谷部葉子准教授の協力によりアフリカを題材とした特別講座を実施した。今回は「開かれた教室」を実践するためCALL Workshopに設置された遠隔授業システムを用いて、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスからリアルタイムに講義を配信するという形態で授業が行われた。遠隔授業は5月にJICA（独立行政法人国際協力機構）との連携講座に続き2回目の実施となる。

長谷部准教授はコンゴ民主共和国における学校建設プロジェクトに携わっており、現地足を運びながらの活動を行っているため、生の体験談を交えて生徒たちにアフリカの現状を伝えた。また同准教授は、ネットワークを利用した英語教育を専門としていることから、授業はマルチメディアを使った資料の提示法や、生徒をどのように授業

に巻き込むかについて綿密にデザインされていた。授業はインタラクティブに展開され、生徒たちは積極的に参加をしていた。授業終了後に書かれた生徒の感想文からも生の情報の印象深さを知ることができた。

英語科では、今後も慶應義塾大学との連携授業のほか、海外のインターナショナルスクールに在籍する生徒との意見交換など、世界的なスケールでの遠隔授業を通して「開かれた教室」の実践を計画中である。



▲慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにいる長谷部准教授に手を上げて質問をする生徒たち。

## 常磐大学幼稚園

NEWS\*

## 鹿島臨海鉄道（大洗鹿島線）に乗って

## ● 初めての電車遠足で「くぬぎの森スポーツ公園」へ



常磐大学幼稚園では、学年毎に春と秋に園外保育（遠足）を実施している。園バスや大型観光バスで目的地まで行き、園外活動をし、お弁当を食べ…というスタイルが定番。公共の交通機関といえば、バスと鉄道がその代表格だが鉄道を利用したことがない。そこで、今年度の年長組秋の遠足で鹿島臨海鉄道大洗鹿島線を利用しようと計画した。初めに候補に挙がったのは、しじみで有名な「酒沼」だが、お弁当を食べる場所や歩道の安全性などから却下。次に候補に挙がったのが大洋駅から徒歩で15分程の場所にある「くぬぎの森スポーツ公園」。水戸駅から大洋駅までの所要時間は50分で少々時間がかかるが、電車に乗ることと歩くことが主目的の遠足として実施を決定。初めての電車遠足で子どもたちは様々な事を学び感じ取ってくれた。

## 目的

- ①秋の自然を体全体で感じ、安全に気を付けながら、友達と一緒に歩いたり過ごしたりすることを楽しむ。
- ②電車の乗り方を知り、約束事や公共でのマナーを自分なりに守ろうとする。

## 場所

くぬぎの森スポーツ公園  
鉾田市上沢1032-1 TEL.0291-39-7255



## ●就職状況報告

常磐大学・常磐短期大学の2008年度就職内定状況は、学部・学科により多少ばらつきがあるものの、前年同時期とほぼ同水準となっている。卒業まで残り少なく環境も厳しいが、まだ内定を獲得していない学生に対しては全員内定に向け木目細かな指導を徹底していく。

また、大学3年生、短大1年生の就職活動が本格化する時期となった。昨年から就職ガイダンスや就職支援バスツアー、業界研究など様々なプログラムで就職活動の支援を実施しているが、今後も学内会社説明会や内定者による活動報告会等を計画している。

## ●第12回常磐フォーラム開催

茨城県内の企業と交流を深め産学連携の強化を図る『第12回常磐フォーラム』が、10月8日、水戸京成ホテルで開催された。

開会に先立ち、諸澤英道理事長と高木勇夫学長が挨拶。会場に企業と大学が一体となった人材育成の重要性を呼び掛けた。挨拶に続いて行われたのは、慶應義塾大学名誉教授、高橋潤二郎氏による講演会。『社長の役割—経営寓句の世界—』をテーマに、松尾芭蕉や正岡子規などの俳



←フォーラムには地元企業など95団体が参加。約150名の企業関係者が会場に詰めかけた。

句を現代社会に投影した、新たな解釈を披露していただいた。

学生の研究発表にはコミュニテ

ィ振興学部コミュニティ文化学科3年の伊藤麻奈美さん、大松美香さん、鈴木沙織さんが登場。『私と水戸と弘道館〜デジタル・アーカイブプロジェクトを通して見えてきたこと〜』と題し、水嶋英治教授のゼミナール研究を発表した。弘道館の貴重な資料をデジタルデータで半永久的に保存するというこの最先端の取り組みに、会場は高い評価を与えていた。

フォーラム終了後には、会の運営を手伝った学生たちを交え懇談会を実施。普段は接する機会の少ない企業の方々との交流を深め、学生たちは有意義なひとときを過ごした。

## ホームカミングデー開催！

### ◎常磐大学1992年度卒業生



10月25日、常磐大学見和キャンパスにおいて、卒業15年を経た常磐大学1992年度(人間科学部7期)卒業生を対象としたホームカミングデーを開催した。卒業生41名(うち同伴の方21名)、教員8名の計49名が参加。

開会のことばに続き、高木学長は、当時から現在に至る大学の変遷、今後の展望について話した。懇親会は、伊田人間科学部長の乾杯の挨拶でスタート。当時のVTRを観て学生時代を思い出しながら、また、先生や参加者からの近況報告を聞いて今を感じながら、卒業生・教員とも再会を喜び、親交を深めた。終始笑い声が絶えない中、盛会のうちに閉会。当日は、ときわ祭開催日ということで、教室まで足を運んだ参加者は学生時代と様変わりしたキャンパスに驚き、懐かしんだ。参加者からは「懐かしい映像を観たり、友人と語り合ったりと、楽しい時間を過ごせました」といった感想が寄せられた。

### ◎常磐短期大学生活科学科生活科学専攻2007年度卒業生



10月18日、学校法人常磐大学同窓会館において、常磐短期大学生活科学科生活科学専攻2007年度卒業生を対象としたホームカミングデーを開催した。卒業生8名、教職員6名の計14名が参加。Tea Partyでは、参加者全員がそれぞれ現況を報告し、学生時代とは違い社会人として頑張っている話など、笑いあり涙ありの時間を過ごした。続いて行われた共同炊事では、卒業生と教員と一緒に庭に出てピザを焼いたり、キッチンでミネストローネを作ったりした。参加者からは「みんなで料理を作れて楽しかった。今後も続けてほしい」といった声も聞かれ、閉会時間を延長して、アットホームな雰囲気の中、親交を深めることができた。

卒業生センターでは、今後もホームカミングデーを開催する予定である。多くの卒業生が母校を振り返る機会としたい。





# ジェイムズ・ヒルトンの自筆手紙に寄せて

※常任理事（一貫教育担当） 諸澤 篤子

智学館中等教育学校に、名誉校長の小田卓爾先生より「チップス先生さようなら」の著者ジェイムズ・ヒルトンの自筆の手紙が寄贈された。「チップス先生さようなら」は、イギリスのパブリックスクールでほぼ全人生を送ったある教師の物語だが、出版された時すでに大変な好評を博したようで、この手紙は良い書評を書いてくれた批評家のフレドリック・コーレスに対する御礼の手紙として、ヒルトンが書いたものである。1935年1月6日の日付が付いている。

ブリティッシュウィクリーのクリスマス号付録のために執筆を依頼されたヒルトンは、この話を、自転車であたりを走り回って着想を得て、締め切り間際の4日間で書き上げた、という。今、私の手元にある新潮文庫の日本語訳のカバーの折り返しに「さわやかで陰のない顔立ちをした典型的英国紳士」ヒルトンの写真が載っている。

退職し、老いの日々を送る元教師の回想の形で綴られるこの物語は、当時のイギリスの典型的なパブリックスクールでの日々が描かれるが、様々な生徒達に会い、様々な問題に出会っていく「チップス先生」のことに託して、ヒルトンがこの本で語りたかったことは「平衡感覚」(sense of proportion)の大切さであった。

Sense of proportion を一言で理解するのは難しい。詳しいことは小田卓爾(2008)と、池田潔(2007)に譲るとして、私はいかにもヨーロッパ的「平衡感覚」を持っていそうな人柄が読み取れるヒルトンの写真を見ながら、我々日本人が陥りがちな判断の誤りを防ぐものがsense of proportion なのではないか、と思った。

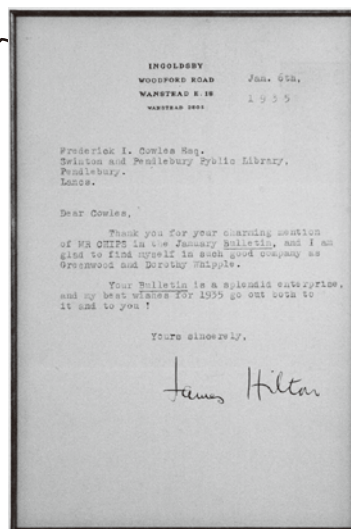
私たちは、長期的な夢や希望がある、ないに関わらず、日常小さな目的を設定し、それに至る手段を選び遂行する、といった行為を繰り返しているが、ともするとその一連の行為の狭間で、何が大切なのかそうでないのか、ということを見極める目を失い、そもそも何が当該の問題だったのかさえ、分からなくなっていることに気がつくことがある。ある目標に至る手段として設定したはずの下位目標が、それに向かって邁進するうちにいつの間にか最重要目標にとって変わってしまい、本来の目標を忘れてしまう。例えば、子供の教育にしても、子供の幸せを願っていたはずが、気がついたらいつの間にか全く反対のことをしていた、ということはよくあることである。

丁度平均台に乗っていて、片方に重心が寄ってしまいそうになった時は、両手を広げ前方を見て重心を戻すように、常にバランス感覚を確認しながら歩を進める、ということが日常の行為の連関のなかにも必要なのではないだろうか。そうしないと、行く先を見失う。ビジョンを失わず、常にバランス感覚を保って自分の人生を歩み、静かに終えた一人の人間像としてのチップス先生から、私たちはこのことを学ぶ。

ところで、パブリックスクールの特色は寮生活にある。4年前に夫と共にイギリスを旅行した折に、知人の教授の案内でケンブリッジ大学を訪ねたが、たまたまその日は、丁度秋学期始めの新入生入寮の日で、大荷物を抱えた学生達が学校に入るところに出会った。それぞれ少し緊張の面持ちで、煉瓦造りの寮に向かっていった。

夕方からは、チャペルでオルガンコンサートがあったが、コンサートが終わって再び校庭に出てきた時は、あたりはもう暗くなっていて、寮の窓々には明かりが灯されていた。教授は、その窓の一つを指さし、自分が学生時代に住んでいた部屋だと懐かしそうに語り、少年のような少しおどけた表情をして見せた。

パブリックスクールとカレッジの違いはあるにしても、広々とした緑の校庭と歴史のある赤い煉瓦の建物での寮生活で、イギリス伝統の教育は、失われず受け継がれて行くことだろう。そして、あの日に入寮した学生達が大人になった時、学校は彼らにとって「夢がいつも帰って行くところ」になるのだろう。



※ヒルトンの手紙は智学館の玄関ロビーに飾られています。

なお、智学館で行われている教科横断型テーマ学習の6月のトピックは「バランス」でした。

## 【参考文献】

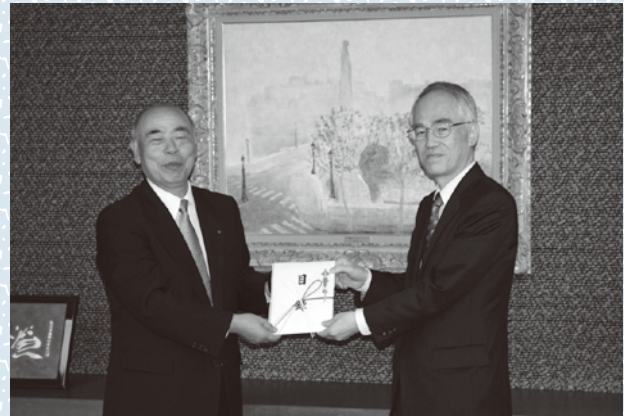
- Hilton, J. (1934). *Goodbye Mr Chips*. London: Hodder & Stroughton.  
 日本語訳として、菊池重三郎訳(2008)、ヒルトン「チップス先生さようなら」新潮文庫がある。  
 小田卓爾(2008)、「理想の一貫教育」三田評論No.1111、36～49頁。  
 池田潔(2007)、『自由と規律—イギリスの学校生活—』岩波新書C141、岩波書店。

常磐大学大学院  
常磐大学  
常磐短期大学  
常磐大学高等学校  
常磐大学幼稚園  
智学館中等教育学校

## 常陽銀行より200万円のご寄付

### ◆常磐大学の地域の環境づくりの活動支援として

このたび、常磐大学地域連携センターにおいて、常磐大学学生を含む次世代に向けた持続可能社会を構築し、地域の環境づくりの一助となるべく、県内16市町村の職員とコミュニティ振興学部横須賀徹教授により立ち上げられた「自治制度研究会」の活動に対し、株式会社常陽銀行よりその活動支援として200万円のご寄付をいただきました。



鬼澤邦夫常陽銀行頭取より寄付金の目録を受け取る高木勇夫学長  
(10月23日/常陽銀行本店にて)

この研究会は、人材の育成や効率的な総合計画・予算案の策定に向けた共同研究の場として2008年5月から7月の間、全10回開催され、次年度以降も継続して実施する予定です。また、今後その研究成果を各自治体に資料頒布し、市民に対する行政サービス向上に繋がります。その他、自治体のトップから地域の方々、常磐大学学生まで幅広い層を対象に地域の環境づくりに関連する講演会なども予定しており、地域の環境について市民と共に考え、活動していくことを目指しております。

### 寄付者ご芳名 \*敬称略 [期間 2008年9月～12月]

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。

#### ◆一般寄付

寄付者	金額	内容
諸澤 篤子 (常任理事)	40,000円	学校法人常磐大学に対する教育支援
河野 公紀 (智学館中等教育学校教諭)	10,000円	同上

#### ◆特別寄付

寄付者	金額	内容
株式会社常陽銀行	2,000,000円	常磐大学における持続可能社会に向けた地域の環境づくりの活動資金

### 寄付金のお願い

この寄付金は、学校法人常磐大学における教育および学術研究の充実、発展を目的としたものです。この寄付金を園児、生徒、学生の教育や教員の研究活動へ有効に利用させていただき、地域や社会に貢献する教育機関として一層の努力をしてゆく所存です。皆様の格別なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

#### ◆募集要項

目的	学校法人常磐大学が行う教育研究に関わる活動に対する支援
募金対象者	個人（卒業生、保護者、教職員、一般有志）、法人、団体
金額	特に定めておりません。
申込方法	下記の寄付資産運用課までご連絡をいただければ、寄付申込書等の関係書類をお送りいたします。
免税措置	この寄付金は、税制上の優遇措置を受けることができます。
寄付者顕彰	ご寄付を賜りました方へのお礼と感謝の意をこめて、学報等にご芳名等を掲載させていただきます。

#### ◆申込み及び問合せ先

学校法人常磐大学 寄付資産運用課 TEL：029-232-2759 E-mail：kifu@tokiwa.ac.jp  
※寄付金の申込みは任意ではございますが、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

—表紙写真解説—

## Tokiwa Memories \*3

1983年4月、常磐大学は人間科学部人間関係学科とコミュニケーション学科の2学科を擁して開学した。入学定員200名、専任教員24名でスタートした常磐大学は、現在3学部体制となり、大学院も設置。入学定員は700名、専任教員122名にまで発展拡充してきた。

## 編集後記

世界的な金融恐慌は実体経済に打撃を与え、就職活動にも暗雲が垂れ込めてきました。しかしこのような時こそ、着実な取り組みが成功を掴むカギになるのではないのでしょうか。それを裏付けるような明るい知らせがキャンパスに舞い込んできました。それは硬式野球部の全国大会出場です。私たちもこの偉業に歓喜すると同時に、日々の努力の重要性を再認識しています。